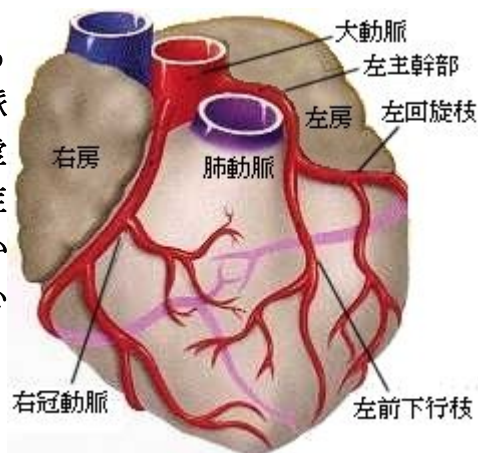


虚血性心疾患とは

心臓の表面には心臓を動かすために心筋に血液を送る冠動脈が取り巻いています。その冠動脈の内壁が動脈硬化によって狭くなり十分に酸素を送れない状態を虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）といいます。狭心症と心筋梗塞の大きな違いは、心筋が回復するかどうかで、狭心症では心筋が死なず回復するのに対して、心筋梗塞は心筋が死んでしまい回復しません。

冠動脈は心臓に酸素と栄養を供給している血管で、左に2本（左前下行枝と左回旋枝）、右に1本（右冠動脈）大きなものがあります。



虚血性心疾患の症状

痛みを感じる場所	胸の中央、左胸部、左肩、首、下あご、みぞおちなど。胸痛が肩から腕などへ広がる(放散)こともあります。
痛みの性質	締めつけられるような、抑えつけられるような、重苦しいといった漠然とした痛みです。胸やけ、肩凝り、歯痛などが主な症状のこともあります。
痛みの続く時間	狭心症は数分から10分くらいです。心筋梗塞は数時間です。

特に糖尿病の患者さんでは神経障害により痛みのない虚血発作（無痛性心筋虚血）や、心筋梗塞になっても全く痛みがなく軽い息切れ程度の症状の場合（無痛性心筋梗塞）がありますので注意が必要です。